

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 26 年度第 2 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 26 年 9 月 18 日 (木) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所分庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：13 名> 大江会長・渡辺副会長・加藤委員・降旗委員・波多野委員・清水委員・多田岳人委員・多田典子委員・勝又委員・北澤委員・鶴田委員・豊田委員・岡山委員 <欠席者：1 名>	
	事務局	中谷環境部長・小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・秋元ごみ対策課長補佐・井上・八方・佐藤・穂山・吉田・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	2
会議次第	1 開 会 第 1 回審議会会議録の確認について 2 議 題 一般廃棄物処理基本計画の策定について (審議) 3 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 26 年 10 月 2 日 (木) 小金井市中間処理場事務所棟研修室 1		

審議過程(主な発言等)

大江会長	第2回の小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。事務局より配布資料の確認をお願いする。
秋元ごみ対策課長補佐	(配布資料確認)
大江会長	机上配布資料の差し替え部分は、後ほど説明するというので、追加資料と事前配布の資料をご確認頂けたと思う。それでは、事前配布の第1回審議会の会議録について何かご意見やご質問はあるか。お気づきのときに事務局に申し出てほしい。問題なければ公開の手続きの方に入らせて頂きたい。
委員各位	(異議なし)
大江会長	それでは議題に入る前に、前回ご欠席の方へ委嘱状を伝達して頂く。
稲葉市長	(清水委員、勝又委員、委嘱状伝達)
大江会長	それでは、これから議題の方に入りたいと思う。今回は今年度の審議会に対する市の方からの諮問がある。諮問について事務局の方で進行をお願いしたい。
稲葉市長	(小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定(諮問))
大江会長	しっかりやりたいと思う。お聞きのように、市長の方から基本計画策定についての諮問を受けた。今回から本格的な内容の議論になっていく。それでは諮問を受けたので基本計画の審議に入らせて頂きたいと思うが、その前に、市長からご挨拶頂きたい。
稲葉市長	(市長挨拶)
大江会長	稲葉市長だが、他の公務があるためここで退席する。 (市長退席)
大江会長	それでは、基本計画の審議に入らせて頂きたい。まずは提出資料について事務局から説明願いたい。
小野ごみ対策課長	(各調査結果概要、基本計画素案説明)
大江会長	事務局から、ワークショップ、組成分析、アンケート調査の説明と、一般廃棄物処理基本計画素案の全体を説明してもらった。今後、ほぼ2週間ごとで、今の全体内容を詰めていく形になる。平成26年12月12日までに、今日諮問頂いたことに対して答申する形に持って行く必要がある。進め方であるが、今日の残り時間では、できれば序章、1章あたりを中心に意見を出してもらいながら、全体についてご一読されて感じたこと、あるいはここはどうなのかという項目出しをして頂きたい。それを平

審議過程(主な発言等)

<p>加藤委員</p>	<p>成26年10月2日に、できる限り整理して頂いて、その後の検討に活用していきたいと思う。次回以降の本格議論を見据えて、お気づきの点、要望、質問等を出して頂きたいと思う。なお、発言にあたっては挙手してお名前をおっしゃって頂きたい。</p> <p>組成分析については、平成24年3月に生ごみ等循環型まちづくり推進事業報告書を策定した際、可燃ごみ、不燃ごみの組成分析をしている。その分析結果と今回の結果を見ると、特に厨芥類等がだいぶ違う。戸別住宅等では、66%ぐらいあったのが今回49%である。廃棄物のサンプリングは非常に難しいとは思いますが、あまりに違い過ぎるところがあるので、これをどう考えるのか、検討と若干の解説が必要だと思っている。アンケートについては、アンケートの記述というのは膨大だが、これだけ皆さんが熱心に書かれているものは非常に貴重な意見であるため、どういう傾向になっているかまとめてもらいたい。重複もかなりあるので、分析も含めて整理して頂きたい。</p>
<p>大江会長</p>	<p>これに関連して何か要望はあるか。</p>
<p>清水委員</p>	<p>アンケート調査の記述部分についてのまとめというのは非常に難しいだろうと思う。ビッグデータという手法があるが、キーワードを選んで、そのキーワードがどういふところに出て来るかというような、分析の仕方もあるのではないかと思う。どういう形で整理するか分からないが、ビッグデータの解析方法というのをもう少し勉強して頂いて、そういう考え方も入れたらどうか。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>組成分析の結果が戸建、ファミリー向け集合、単身集合の3つに分かれているが、おそらく住宅の構成割合は統計があると思うので、小金井市の家庭系全体の推計割合という集計もして頂けると良いと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>小野ごみ対策課長より、これらの貴重な調査をふまえて基本計画に反映させたという説明があったので、組成分析やアンケートの結果が計画にどのように反映しているのかをサンプル的にも教えて頂けると、踏まえたことが分かる。基本計画を作るために、ワークショップも含め、基礎資料として、反映させることは重要である。アンケートの資料は、膨大なため、重要な特徴が出ているところはコンパクトにまとめ、様々なところで活かしていく必要があるので、整理して頂きたい。また、生ごみ等循環型まちづくり推進事業報告書策定の際に実施した組成分析の調査結果についても、比較は大事なので、やって頂きたい。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>アンケート結果で、2ページ目に居住地区の回答件数の結果が示されている。無作為抽出ということだったが、極端に梶野町と桜町が低い。何か補足が必要ないかということをお伺いしたい。</p>
<p>大江会長</p>	<p>多分回収率の偏りが出たと思うが、これは事務局の方で次回までに分かるか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>居住地区の関係で、小金井市には10町あるが、平成26年6月1日時点での小金井市各居住地区の人口割合で調査票を送っている。梶野町、桜町についてはもともと人口が少なく、基本的には人口の割合ごとに概ね適正な回答を頂いている</p>

審議過程(主な発言等)

	<p>と思っている。</p>
鶴田委員	<p>元の人口に対する回答者数の割合を示すと、大体同じぐらいの比率だということが分かって良いのではないか。</p>
大江会長	<p>3,000件の送付で1,182件回収という回収数は貴重なデータである。事前に我々が目を通せなかったのが残念だという意見が前回出たが、大事な基礎データなので、色々な分析をしていきたいと思う。他に意見はあるか。</p>
加藤委員	<p>現基本計画策定の際に実施したアンケートと今回のアンケートは、状況やテーマもだいぶ違うということもあるので、一概に比較はできないが、市民の意識という点では、比較もできるところがあると思う。そのことについても、この10年間どのように意識の変化があったのかどうかを含めて出して頂ければと思う。</p>
清水委員	<p>基本計画10ページ、表1-4ごみ処理経費の金額の単位について、千円という単位は、これは千円のままで良いというお話があったが、これはやはり円ではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>年間1人あたりのごみ処理料金であるが、表記については分かりやすいように整理する。</p>
清水委員	<p>年間を入れておかないと分からない。それと組成分析調査のファミリー向け集合住宅、単身集合住宅という分類は、何をもってそういう分類をしたのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>収集は全て平ボディ車でいった。ただマンションの中で家族構成がどういう部分かということまでは、当然把握していないので、そこについては今までのごみの収集の状況から、概ね家族構成の世帯が多いだろうということでマンションを選んで集めたという状況である。戸別住宅については完全に戸別住宅から集めた。単身集合住宅については単身者が多いだろうという集合住宅から集めているということでご理解を頂ければと思う。</p>
大江会長	<p>最初に2つ質問が出た組成分析とアンケートを中心に限定して来たが、基本計画全体も含めて、ご意見、ご質問を頭出しして頂きたい。</p>
加藤委員	<p>素案10ページ、ごみ処理経費は、地方財政状況調査を基に作成しているとのことだが、一方で環境省の一般廃棄物処理実態調査との関係はどうなのか。似たような感じになっている気はするが、環境省の方を選ばなかったのは、どういう理由で選ばなかったのか。環境省の場合は1人1日というのも出している。</p>
大江会長	<p>集計のレベルの違いはどうなのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>環境省の一般廃棄物処理実態調査では、建設・改良費、処理及び維持管理費、その他という大項目があり、それぞれの大項目ごとに経費を割り振る必要がある。その経費の割り振りや集計の仕方については、各自自治体ごとの判断によるとこ</p>

審議過程(主な発言等)

<p>加藤委員</p>	<p>るもあることから、他自治体と比較するという点に関して正確なのは地方財政状況調査と捉え、今回は地方財政状況調査で比較をした。</p> <p>環境省の一般廃棄物処理実態調査は、環境省の一つの基準でやっていると思う。一方、廃棄物会計については、自治体によって違う。特に小金井市の場合は先駆的にやっており、比較に際しては各自治体の事務報告、事業概要を見ると非常に難しくて分からなくなってしまうので廃棄物会計の比較は難しい。そのため、環境省の一般廃棄物処理実態調査による比較が必要ではないか。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>清掃費の内訳としては、通常1つの自治体で完全にごみ処理を行っているところであれば、焼却施設等の中間処理施設の設立と運営も、すべてその市が行う。そうすると建設費の繰延勘定や減価償却のようなものも、大概ここに積まれる。その人件費もおそらく、し尿の方まで含めて積むのが普通で、それを年間で割る。当該市に関しては、かなり委託で出している部分が積まれていると思う。だからスタンダードな状況として、そのまま比較できないという難しさがあるのだと思う。ただ多摩地域に限っては、基本的に一部事業組合で処理しているところが通常であるから、各市で組合にどれだけ支出しているかということが大きく効いてくると思う。その委託料が細かく内訳で入っていると、もう少し分かりやすいのではないかと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>ごみ処理経費の内訳について、他自治体と比較ができるデータを提示して頂きたい。</p>
<p>岡山委員</p>	<p>その他にも、ごみ処理等に係る経費ばかりではなくて、売却益がある。せっかく資源をどれだけ集めたという項目が全部出るわけなので、その部分も加味されていると、市民にとっては、一生懸命分別すれば、その部分は経費の削減につながるのだということが分かりやすくなるので、併せてあると良いと思う。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>小金井市の平成25年7月15日号市報ごみ減量・リサイクル特集号では、平成24年度の古紙・布1キロあたり約32円とかあるが、その中には歳入の部分が入っていないと思う。歳出と歳入の部分については、正確に把握しておいた方が良い。また、素案4ページで平成25年度の焼却実績が12,557トン、素案6ページの燃やすごみが12,195トンとなっている。燃やすごみよりも焼却炉の方が300トン以上多いが、この違いについて解説して頂きたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>直接搬入があるためである。素案4ページの12,557トンは、素案6ページの12,195トンに、素案8ページの上の表の362トンを足したものである。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>日野市、国分寺市、小金井市の基本設計書の中には、小金井市の可燃ごみの排出量の実績が、14,657トンとある。これは資料にないので、併せてお聞きしたい。</p>
<p>藤田ごみ処理施設担当課長</p>	<p>先程加藤委員からご質問のあった基本設計書に、平成24年度の焼却量ということで14,657トンという数字がある。素案6ページに平成24年度12,270トンとあり、この差は約2,400トンある。今小金井市は焼却施設を持っていない関係で、事業</p>

審議過程(主な発言等)

	<p>所から出るごみを民間処理施設にお願いをしている。ごみ処理施設があれば、事業所から出る可燃ごみについてもそこで処理するのが普通なので、現状ごみ処理施設がないことによって、他の施設にお願いしている分が戻ってくる想定で、平成24年度実績である。</p>
大江会長	<p>その約2,000トンは事業系ごみが新施設で処理される可能性があるのか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>事業系ごみについても新しい施設で処理をしていくという考え方である。</p>
大江会長	<p>それは清掃概要にも市報にもどこにもない。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>表記はない。基本的には事業系ごみというのは排出者責任であるため、事業主が責任を持って、民間処理施設と契約し処理している。主としてこういう処理をしているというのは分かっているが、細かい量については、全部を把握していない。</p>
加藤委員	<p>そうすると推計ということか。実績なら、どこかで量って数字が出るはずである。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>民間処理施設からヒヤリングした数字である。民間処理施設の計量器で量った数字である。</p>
加藤委員	<p>民間処理施設というのは、例えばどんな例が挙げられるのか。産廃として持って行ったものか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>事業系一般廃棄物である。</p>
大江会長	<p>それが今度の計画の中で、平成31年度以降に戻って来るのか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>現時点では、そういう想定である。</p>
大江会長	<p>日野市に提出したのは、実績でもあり、想定なのか。</p>
藤田ごみ処理施設担当課長	<p>実績を基に算出しているが、多少減にはなっている。</p>
岡山委員	<p>その民間処理施設は小金井市内にあるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>これは平成26年度一般廃棄物処理計画の中には明記されていて、埼玉県や都内等いくつかの民間処理施設へ持って行っているが、ごみ処理施設担当課長が答弁したのは、そのうちの埼玉県にある民間処理施設で処理しているごみの実績である。全てではない。</p>

審議過程(主な発言等)

加藤委員	約2,400トンということになると、平成24年度の事業系の燃やすごみが362トンであることから、事業系ごみが約2,760トン以上になるということか。
藤田ごみ処理施設担当課長	その362トンが含まれているので、約2,400トンから差し引いて約2,000トンである。素案の39ページで、ごみ量の推計値の説明をしたとおり、但し書きのところで「約2,000トンの増加も」としている。
加藤委員	確かにそうしないと整合性がないと思う。2,700トンにもなったら、非常事態宣言の3年も4年も前の数字を出しているという感じになる。
渡辺副会長	39ページにいきなり「約2,000トン」と出てきたのが、なぜいきなりこんな数字が出てくるのかという感じだった。ここはもう少し明確に、「現在、市で収集していない事業系ごみが」と書いた方が良い。ごみ処理手数料を改定するというのも、計画に入らないといけないのに、それによって約2,000トン増えるか増えないか分からないというのは、計画として疑問を感じていた。
藤田ごみ処理施設担当課長	内部でも議論があった。3市のごみ処理手数料は、小金井市が55円、日野市は42円、国分寺市が35円なので、今後3市で協議をしていく関係で、その金額によっては事業所が新しい施設に持って行くことも想定される。仮に55円のままでいけば、約2,000トンというのは来ない可能性もある。言葉が足りなくて申し訳ないが、まだはっきりしていない部分であるため、外書きしている。
加藤委員	手数料が下がると、今まで民間に持って行っていた事業者が、小金井市の処理の方に戻るのか。
藤田ごみ処理施設担当課長	新しいごみ処理施設に持ち込まれるということも想定している。
加藤委員	そうすると拡大生産者責任の追及ということにはならない。
藤田ごみ処理施設担当課長	事業系ごみについては、まだ流動的な部分もあり、相手がある話であるので、どちらともとれるような書き方にしてある。私としては設計数値に入れておかないと、戻って来た場合にごみ処理施設がパンクするというわけにはいかないの、それで一応確保してあるというところである。
岡山委員	今約2,000トンが市外の埼玉県に出ているとのことだが、小野ごみ対策課長が述べた都内の民間処理施設であれば、食品リサイクル法上に関係する外食産業、スーパーマーケット等の食品廃棄物であるところが大きいと思われる。そうであれば、基本的に法令に則ってリサイクルされるべき廃棄物である。それが可燃ごみの方へ戻ってくるというのは考えられないと思う。
藤田ごみ処理施設担当課長	ご指摘頂いた分については、カウントしていない。先程申し上げた埼玉県の民間処理施設では、例えば小さな居酒屋さんや、そういう小規模商店の集まりが対象であるので、ご指摘頂いた食品リサイクル法に則っている部分については、新しい施

審議過程(主な発言等)

	<p>設に持って行くという想定はしていない。</p>
渡辺副会長	<p>素案39ページの上段3行はすごく漠然としていて分かりにくいので、支障のない範囲で、もう少し分かるように表現して頂ければと思う。単にごみ処理手数料というと、市民が有料袋の値段を変えると捉える場合も想定されるので、これは事業系の搬入手数料であることが分からないといけないと思う。</p>
降旗委員	<p>アンケート調査の2ページの設定結果の問1のところに「あなたはごみの減量、分別、それからリサイクルについて関心がありますか」という設問がある。平成17年度では、かなり関心を持っている方が52.2%、今回は68.5%と、一般市民の方は意識が高くなっていて好ましい結果であるが、ほとんど関心がないという方が1%から2%に増えている。全てがポイ捨てをやっているとは思わないが、リサイクルに関心がないという人は、空き缶やペットボトルのポイ捨てが一番近い。我々も町の美化パトロールで環境を向上させようと思ってやっているが、計画の中に美化パトロール等も出ているので、今後も推進して頂きたい。</p>
北澤委員	<p>10年間の計画の検証をふまえて、基本計画を作るべきで、それをまとめて欲しいという宿題が前回あったが出ていないので、きちんと出して頂きたい。</p>
鶴田委員	<p>素案の10ページ、一般廃棄物処理実態調査の記述で、多摩地域では小金井市の市民1人1日あたりのごみ総排出量は一番少ないが、素案10ページ及び11ページのごみ処理経費で見ると、市民1人あたりの年間処理費用が多摩地域と同じぐらいかと思えば、その上を行っている。市民感覚だと、なぜこれだけの費用が掛かっているのかというところを、もう少しご説明、分析を頂きたい。3Rを推進するために、色々な調査、分析、研究をされて、それに費用をかけているという話であれば、市民としては理解できるが、なぜこのように高いかということが資料になっていると良い。</p>
大江会長	<p>そういうことも踏まえ、多摩地域において1人あたりのごみ量は少ないが処理コストは掛かっていることについて、もう少し分かりやすく示すことも考えられる。他に意見はあるか。</p>
多田岳人委員	<p>前回の基本計画では「継続」という言葉が多かったが、今回は「継続」という言葉が軒並み「推進」という言葉に変わっている。どうして切り替えられたのか。また、第4章が新たに加わった理由をお聞きしたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>新しい計画の具体的な取り組みに、前期、後期、推進、充実、開始、検討等があるが、こちらは基本的に小金井市の第4次基本構想の前期基本計画の文言に合わせているため、前回の基本計画とは少し表記が違っている。第4章生活排水処理基本計画については、環境省のごみ処理基本計画策定指針に基づき掲載した。</p>
北澤委員	<p>新しい基本計画だが、PDCAを回すと書いてあるが、前期推進、後期推進でどうやって検証するのか。何かやっていたら、推進で評価100点ということになるの</p>

審議過程(主な発言等)

<p>加藤委員</p>	<p>か。目標設定をできるものはもう少し細かくできないのか。何回やる、いつまでに何をやるとか、その辺をやっておかないと、評価ができない。全くチェック機能が働かないので、PDCAは回らないと思う。ずさんな計画と言うと申し訳ないが、これは計画になっていないと申し上げたい。</p> <p>前回の基本計画では、可燃ごみはどのくらい減らすという具体的な目標があったが、今回については総ごみ量の1%、10年間で10%ということで、可燃ごみをどのくらい減らすかは一言も言っていない。一方で、広域支援をお願いしなければならないということで、ごみ減量については文章の色々なところで言っている。これは他の市の方が見て、何だということになる。厳しいかもしれないが、無責任な計画になってしまうのではないか。具体的に、可燃ごみを10年間でどのくらい減らすかということは、はっきり目標を示すべきだと思う。</p>
<p>大江会長</p>	<p>昨年度平成26年度一般廃棄物処理計画を策定する時も、可燃系ごみ5%減の目標が精神論的なところになり、難しいところも多々あるが、小金井市の基本計画は注目されていることもあり、もう少しきめ細かく対応していくことが必要ではないか。前回の平成18年度の時は、関連資料等を入れて資料編を作った。そういうところも含めまだ不足しているところがある。例えば小金井市が抱える課題についても工夫をし、皆に理解されやすいものとして欲しい。忙しいだろうが、頑張って整理して頂きたい。我々の方もそれに応えられるようにしたい。ここでの議論はすごく大事なので、忌憚のないご意見を出して、反映させていきたいと思う。今日はここまでにさせて頂きたい。</p>
<p>渡辺副会長</p>	<p>次回以降、引き続き検討していこうということで、今日はこれで終わりにしたいと思う。次回の日程はどうか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>次回第3回については平成26年10月2日木曜日18時から2時間の予定で、中間処理場事務所棟の研修室で行う。</p> <p>(閉会)</p>